

2014年8月1日

各 位

J X 日 鉱 日 石 金 属 株 式 会 社
三 井 金 属 鉱 業 株 式 会 社
パ ン パ シ フ ィ ッ ク ・ カ ッ パ ー 株 式 会 社
三 井 物 産 株 式 会 社

チリ共和国「カセロネス銅鉱山」の開山式開催並びに銅精鉱の出荷開始について

J X 日 鉱 日 石 金 属 株 式 会 社（社長：大井滋）及び三井金属鉱業株式会社（社長：仙田貞雄）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カッパー株式会社（社長：大井滋）並びに三井物産株式会社（社長：飯島彰己）が出資し、カセロネス銅鉱山を運営するミネラ・ルミナ・カッパー・チリ社（社長：ネルソン・ピサロ、以下MLCC社）は、現地時間7月30日にサンティアゴにおいて同鉱山の開山式を執り行うと共に、銅精鉱の出荷を開始しました。

開山式には、安倍晋三内閣総理大臣、アウロラ・ウィリアムス鉱業大臣をはじめとした日本及びチリ両国の政府関係者、取引先、金融機関、地元関係者、鉱山関係者など500名以上が列席されました。

カセロネス銅鉱山は100%日本資本による資源開発プロジェクトで、2006年の権益取得から約8年間の開発期間を経て、2013年3月から電気銅を、2014年5月から銅精鉱の生産をそれぞれ開始しました。生産される銅精鉱は日本の輸入量の約1割に相当し、2040年までの長期にわたり我が国の銅資源の安定確保に貢献します。また、同鉱山の開発はチリ国経済の発展にもつながるもので、出資各社は今後MLCC社の安定操業に向けた支援を通じて、更なる両国関係の強化に寄与していきます。

また、銅精鉱約5,000トンを積載した出荷第1船（船名：鉱硫号）は、7月29日にチリのコキンボ港を出港しました。同船は、9月下旬にパンパシフィック・カッパー佐賀製錬所に到着する予定です。

以 上

【お問い合わせ先】

JX 日 鉱 日 石 金 属 株 式 会 社 広 報 ・ C S R 部

TEL : 03-5299-7082

三 井 金 属 鉱 業 株 式 会 社 経 営 企 画 部 IR ・ 広 報 室

TEL : 03-5437-8028

パ ン パ シ フ ィ ッ ク ・ カ ッ パ ー 株 式 会 社 総 務 部

TEL : 03-5299-7403

三 井 物 産 株 式 会 社 広 報 部

TEL : 03-3285-7596 FAX : 03-3285-9819



写真：開山式でのテープカットの様子

(左から) 飯島三井物産社長、仙田三井金属鉱業社長、渡 J Xホールディングス名誉顧問、
木村 J Xホールディングス会長、村上駐チリ特命全権大使、大井 J X日鉱日石金属社長、
安倍内閣総理大臣、ピサロMLCC社長、ウィリアムス鉱業大臣、
パチェコ エネルギー大臣、バルガス アタカマ州知事、
デルガド ティエラ・アマリージャ市長

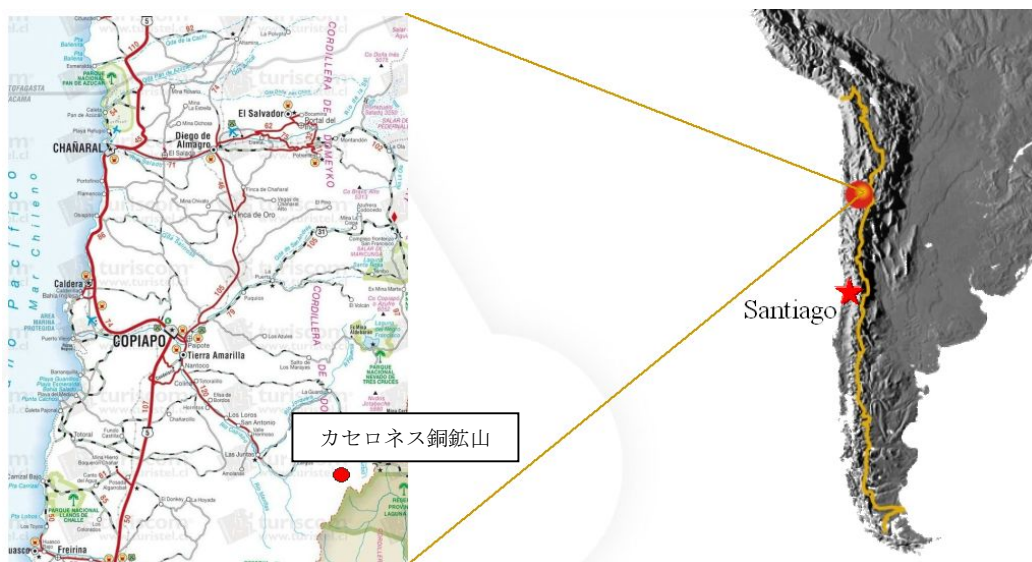


写真：カセロネス銅精鉱 出荷第1船（鉱硫号）への積載のようす

カセロネス銅鉱山について

1. 所在地

チリ第三州の州都コピアポ（Copiapo）から南東162km、アルゼンチンとの国境から15km。
鉱床付近の標高は4,200m～4,600m。



2. 経緯

2006年5月	パンパシフィック・銅が権益取得
2008年9月	フィージビリティ・スタディ（FS）へ移行
2010年2月	開発決定、三井物産が資本参加
2013年3月	SX-EW法による最初の電気銅を採取
2014年5月	銅精鉱の生産を開始

3. MLC社への出資比率：

パンパシフィック・銅 77.37% （JX日鉱日石金属 66%、三井金属鉱業 34%）
三井物産 22.63%

4. 生産期間： 2013年～2040年（28年間）

5. 生産プロセス

採掘（露天掘り）	《銅精鉱・モリブデン精鉱の生産》 → 破碎・磨鉱 → 浮遊選鉱・脱水 → 銅精鉱＋モリブデン精鉱 → （出荷）
	《SX-EW法による電気銅の生産》 → ダンプリーチング → SX-EW → 電気銅 → （出荷）

6. 生産量（見込み）：

（当初 10 年間）

		年平均
銅	銅精鉱（銅量）	約 15 万トン/年
	電気銅	約 3 万トン/年
	合計	約 18 万トン/年
モリブデン		約 3 千トン/年

（28 年間）

		年平均	28 年間合計
銅	銅精鉱（銅量）	約 11 万トン/年	約 314 万トン
	電気銅	約 1 万トン/年	約 41 万トン
	合計	約 12 万トン/年	約 355 万トン
モリブデン		約 3 千トン/年	約 8.7 万トン